



## ロケーション階層の定義

---

- [ロケーション階層の定義 \(1 ページ\)](#)

## ロケーション階層の定義

Cisco DNA Spaces は、次のワイヤレスネットワークをサポートしています。

- **Cisco Meraki**
- **Cisco CMX** を備えた、または備えていないシスコ ワイヤレス コントローラ
- **Cisco Catalyst 9800** シリーズ ワイヤレス コントローラ



---

(注) Cisco CMX を備えていないシスコワイヤレス コントローラと、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの場合、Cisco DNA Spaces コネクタを使用して、コントローラと Cisco DNA Spaces の間で適切なデータ転送が行われるようにすることができます。

---

使用するワイヤレスネットワークに基づいて、次から必要な手順を選択します。

## Cisco Meraki のロケーション階層の定義

Cisco Meraki ロケーションをインポートするには、最初にお客様の名前の下に Cisco Meraki 組織を追加する必要があります。その後、Meraki ネットワークをインポートできます。Meraki ネットワークをインポートすると、フロアとアクセスポイントもインポートされます。アクセスポイントをグループ化し、ネットワークまたはフロア レベルでゾーンを作成できます。ロケーションは、お客様名レベルまたは組織レベルでグループ化できます。顧客名を変更することもできます。

Meraki ネットワークロケーションには、Cisco Spaces でサポートされているタグが付いた 1 つ以上の Meraki アクセスポイントが含まれる場合があります。このような Meraki ネットワークロケーションを追加すると、これらのタグ付き AP のみがロケーション階層に追加されます。現在、Cisco Spaces では Cisco-DNASpaces タグのみがサポートされています。

Cisco Spaces タグ付き AP が 1 つ以上ある Meraki ネットワークロケーションが Cisco Spaces ロケーション階層にすでに追加されている場合、これらのタグ付き AP のみがバックグラウンドでのネットワークの同期中に追加されます。このネットワークのロケーション階層に存在する Cisco Spaces タグの付いていない AP は、次回のバックグラウンドでのネットワークの同期中に、それぞれのロケーションから削除されます。

ただし、Cisco Spaces でサポートされているタグが Meraki ネットワーク内のどの AP にもない場合、すべてのアクセスポイントがロケーション階層に追加されます。タグ付けされた AP がないそのような Meraki ネットワークロケーションが Cisco Spaces ロケーション階層にすでに追加されている場合、すべての AP がロケーション階層に同期されます。既存のロケーション階層に変更はありません。

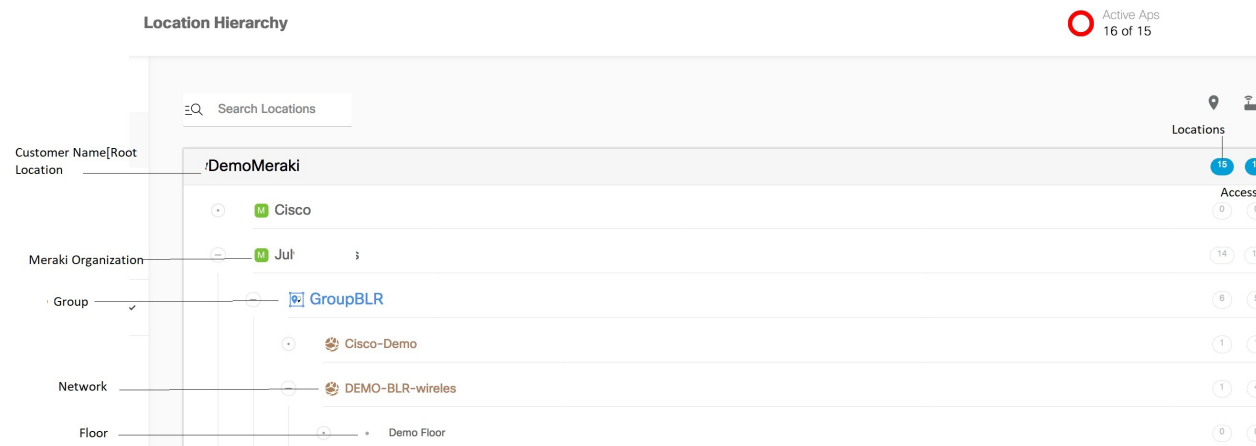
ロケーション階層を作成する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください。ロケーション階層を作成するための前提条件については、[ロケーション階層を定義するための前提条件](#)を参照してください。

Cisco Meraki ネットワークのロケーション階層は次のとおりです。

**Meraki > 組織 > ネットワーク > フロア > アクセスポイント。**

Cisco Meraki のロケーション階層を次の図に示します。

図 1: Meraki のロケーション階層



Meraki のログイン情報がない場合は、Meraki API キーを使用してロケーションをインポートできます。API キーを使用して Meraki からロケーションをインポートする方法の詳細については、[API キーを使用した Cisco Meraki ロケーションのインポート \(5 ページ\)](#) を参照してください。

Meraki のログイン情報を持っている場合、Meraki ロケーションを Cisco DNA Spaces にインポートするには、次の手順を実行します。



(注) ロケーション階層を設定した後、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認します。定義されたタイムゾーンによって、Cisco DNA Spaces のルールとレポートが影響を受けます。

## Cisco Meraki 組織の追加

Cisco DNA Spaces でロケーション階層を作成するには、ロケーション階層にロケーションをインポートする Cisco Meraki 組織を最初に追加する必要があります。



- (注) Cisco DNA Spaces では、ロケーション階層に複数の Cisco Meraki 組織を追加できるため、複数の Meraki 組織に同時に接続することができます。

Cisco Meraki 組織をロケーション階層に追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [Cisco DNA Spaces] ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。
  - ステップ 2 表示される [Location Hierarchy] ウィンドウで、顧客名（ルート名）の [More Actions] をクリックします。
  - ステップ 3 [Add a Wireless Network] を選択します。
  - ステップ 4 表示される [Wireless Network] ドロップダウンリストから、[Cisco Meraki] を選択します。
  - ステップ 5 Meraki アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。
  - ステップ 6 [Organization] ドロップダウンリストから、ロケーションのインポート元となる Cisco Meraki 組織を選択します。
  - ステップ 7 [Add] をクリックします。
- 追加された組織がロケーション階層のリストに表示されます。

## Cisco Meraki 組織へのネットワークの追加

Cisco DNA Spaces では、Cisco Meraki のロケーション階層に従って、ネットワークとフロアの構造を管理できます。Cisco Meraki 組織をロケーション階層に追加した後、そのネットワークおよび関連付けられたフロアをインポートできます。

ネットワークおよび関連付けられたフロアをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] をクリックします。
- ステップ 2 [Location Hierarchy] ウィンドウで、ネットワークに追加する Cisco Meraki 組織の右端の [More Actions] アイコンをクリックします。
- ステップ 3 [Add Network] を選択します。
- ステップ 4 [Add Network] ウィンドウで、ロケーション階層に追加するネットワークを選択します。

[Add Network] ウィンドウに、その Cisco Meraki 組織で使用可能なすべてのネットワークが表示されます。

**ステップ 5** [Add] をクリックします。

追加されたネットワークは、関連付けられたフロアとともにロケーション階層にリストされます。

(注)

Cisco Meraki アプリケーションでは、ネットワーク名が重複しないようにします。

---

## ゾーンの作成とアクセスポイントの追加

ゾーンを使用して、ネットワークまたはフロアのアクセスポイントをグループ化することができます。ゾーンは、ネットワークまたはフロア レベルで作成できます。



---

(注) フロアのアクセスポイントを変更することはできません。

---

ネットワークまたはフロアに対してゾーンを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[Location Hierarchy] を選択します。

**ステップ 2** [Locations] ウィンドウで、ゾーンを作成するネットワークまたはフロアの右端にある [More Actions] をクリックします。

**ステップ 3** [Add Zone] を選択します。

**ステップ 4** 表示される [Add Zone] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a) [Name] フィールドに、ゾーンの名前を入力します。
- b) [Select Access Points] エリアで、ゾーンに追加するアクセスポイントのチェックボックスをオンにします。
- c) [Add] をクリックします。

---

### 次のタスク



---

**ヒント** ゾーンを作成する前に、Cisco Meraki ダッシュボードでゾーンに含めるアクセスポイントを特定しておきます。

---



- (注) ネットワークまたはフロアのアクセス ポイントをゾーンに追加すると、そのアクセス ポイントはそのネットワークまたはフロアでは使用できなくなります。ゾーンに追加されたアクセス ポイントは、別のゾーンでは使用できません。

## API キーを使用した Cisco Meraki ロケーションのインポート

[セットアップ (Setup)] > [ワイヤレスネットワーク (Wireless Network)] ウィンドウで、API キーを使用して Cisco Meraki のロケーションを初めてインポートします。

API キーを使用して Cisco Meraki ロケーションをインポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [ロケーション階層 (Location Hierarchy)] ウィンドウで、顧客名 (ルート名) の [他のアクション (More Actions)] アイコンをクリックし、次に [ワイヤレスネットワークに接続 (Connect Wireless Networks)] をクリックします。
- ステップ 2** [ワイヤレスネットワークに接続 (Connect your wireless network)] ウィンドウで、[セットアップに移動 (Go to Setup)] をクリックします。
- ステップ 3** [ワイヤレスネットワークに接続 (Connect your wireless network)] ウィンドウで、[+新規追加 (+Add New)] をクリックします。
- ステップ 4** Cisco Meraki をワイヤレスネットワークとして選択します。  
ワイヤレスネットワークに [Meraki APIキーによる接続 (Connect via Meraki API Key)] が表示されます。
- ステップ 5** [接続 (Connect)] をクリックして、API キーを使用して Cisco Meraki と Cisco Spaces を接続します。  
[APIキーによる接続 (Connect via API key)] ポップアップウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** [APIキー (APIKey)] フィールドに、ネットワーク情報を取得するための Cisco Meraki API キーを入力し、[接続 (Connect)] をクリックします。  
最初に、その Cisco Meraki API キーの組織のリストが表示されます。選択した組織に基づいて、ネットワークの場所が一覧表示され、選択したネットワークがロケーション階層にインポートされます。
- ステップ 7** [ポストURL (Post URL)] と [秘密鍵 (Secret Key)] パラメータを入力して、Meraki スキャン API を設定します。
- ステップ 8** [ネットワークのインポート (Import Networks)] をクリックして、Cisco Meraki ネットワークをロケーション階層にインポートします。  
最初に、その Cisco Meraki API キーの組織のリストが表示されます。選択した組織に基づいて、ネットワークの場所が一覧表示され、選択したネットワークがロケーション階層にインポートされます。

インポート後、ネットワークの場所が [ロケーション階層 (Locations Hierarchy) ] ウィンドウに一覧表示されます。ネットワークをインポートすると、そのフロアとアクセスポイントもインポートされます。

## Cisco AireOS/ Cisco Catalyst のロケーション階層の定義

Cisco AireOS (シスコ ワイヤレス コントローラ) および Cisco Catalyst (Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ) を Cisco DNA Spaces に接続し、Cisco CMX、Cisco WLC Direct Connect、または Cisco DNA Spaces コネクタのいずれかを使用してロケーション階層をインポートできます。

### Cisco CMX を使用した Cisco AireOS/シスコ ワイヤレス コントローラのロケーション階層の定義

ロケーション階層を作成する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください。ロケーション階層を作成するための前提条件については、[ロケーション階層を定義するための前提条件](#)を参照してください。

Cisco DNA Spaces は、Cisco CMX 10.6 以降のみをサポートします。



- (注) [Add a Wireless] ウィンドウの [CMX on Prem] オプションは機能しなくなります。Cisco DNA Spaces を Cisco CMX を使用して Cisco AireOS/Catalyst に接続する場合、ロケーションをロケーション階層にインポートするために、CMX テザリングを使用してロケーションをインポートできます。CMX テザリングは、マップを Map Service にアップロードするか、Cisco CMX でトークンを設定することで実行できます。マップをインポートすると、マップデータが自動的に [Location Hierarchy] に反映されます。

Cisco CMX がインストールされている Cisco AireOS ワイヤレスコントローラのロケーション階層は次のとおりです。

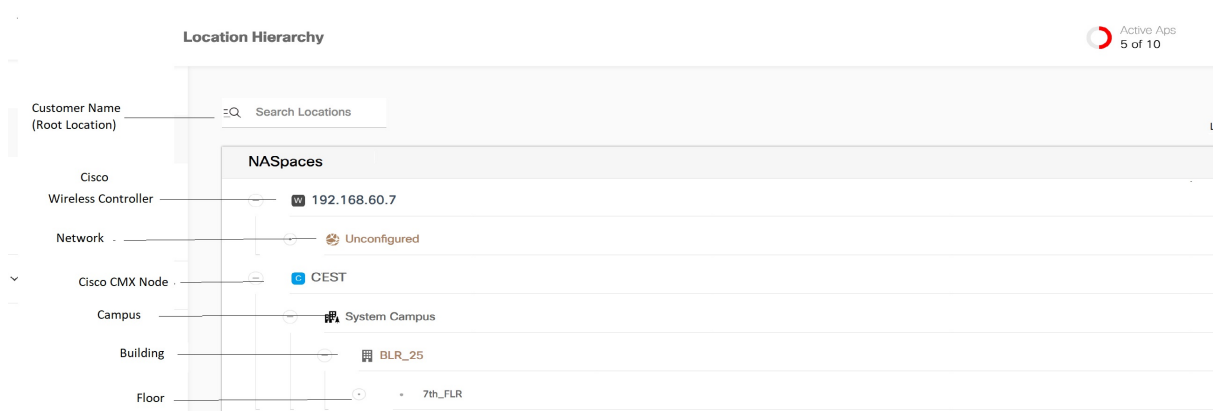
[Cisco CMX Node] > [Campus] > [Building (Network) ] > [Floor] > [CMX Zone] (定義されている場合)



- (注)
- Map Service の更新により、2020 年 10 月以降に新しくインポートされたロケーション階層には、[Campus] > [Building] > [Floor] > [CMX Zone] (定義されている場合) のみが含まれるようになります。ただし、マップのアップロードによって既存のロケーション階層に加えられた更新では、[CMX Node] が引き続き含められます。
  - 既存のロケーション階層に対して、Map Service を使用してロケーションを再インポートすると、重複する AP (すでにロケーション階層に存在し、インポートされたマップにも存在する AP) がマップベース階層に移動されます。したがって、レポートおよびプロキシミティルールが影響を受けます。また、キャプティブポータルを表示したり、通知を送信したりするには、プロキシミティルールを再構成する必要があります。
  - [Cisco DNA Spaces] ダッシュボードでは、[Location Hierarchy] > [Add Wireless Networks] で、[CMX On-Prem] または [WLC Direct Connect] > [Import from Maps] を使用して、ロケーションのインポートが制限されます。

Cisco CMX を使用した Cisco AireOS/Catalyst ワイヤレスコントローラのロケーション階層を次の図に示します。

図 2: Cisco CMX によるロケーション階層



- (注)
- ロケーション階層を設定した後、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認します。定義されたタイムゾーンによって、Cisco DNA Spaces のルールとレポートが影響を受けます。

## CMX テザリングを使用した、シスコ ワイヤレス コントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラへの Cisco Spaces の接続

Cisco CMX 10.6 以降を使用している場合、CMX テザリング機能を使用して、Cisco Spaces をコントローラに接続し、ロケーションをインポートして、通知とレポートのロケーション更新を設定できます。

Cisco Spaces ネットワーク同期サーバーは、CMX テザリングの AP 同期をサポートするようになりました。CMX テザリングの場合、Cisco Prime の AP に加えられた変更は、Cisco Spaces ロケーション階層で更新されます。AP の変更を同期するには、次のいずれかを実行します。

- Cisco CMX で、[SYSTEM] をクリックします。表示されるダッシュボードで、[Settings] > [Controllers and Maps Setup] > [Import] を選択します。表示されるウィンドウで、Cisco Prime のユーザー名、パスワード、および IP アドレスを入力します。次に [Import Controllers and Maps] をクリックして、最新のマップ変更を取得します。[Save] をクリックします。
- Cisco Prime Infrastructure から更新されたマップをダウンロードし、Cisco CMX にアップロードします。
- Cisco Prime から更新されたマップをダウンロードし、Cisco Spaces の Map Service にアップロードします。

CMX テザリングを次の方法で実行できます。

### Cisco CMX でのトークン設定による CMX テザリング

トークンによる CMX テザリングを設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[セットアップ (Setup)] > [ワイヤレスネットワーク (Wireless Networks)] の順に選択します。
- ステップ 2** [Connect your wireless network] ウィンドウで、[Add New] をクリックします。
- ステップ 3** [Cisco AireOS/Catalyst] の [Select] をクリックします。
- ステップ 4** [Connect Via CMX Tethering] の [Select] をクリックします。  
このオプションを使用するための前提条件が表示されます。
- ステップ 5** [Continue Setup] をクリックします。  
[Connect your wireless network] ウィンドウに [Connect Via CMX Tethering] ウィジェットが表示されます。
- ステップ 6** [Connect Via CMX Tethering] ウィジェットを展開します。
- ステップ 7** ステップ 2 で表示された [Create New Token] をクリックします。
- ステップ 8** [Create a new token] ウィンドウで、Cisco CMX テザリングの名前と説明を入力します。
- ステップ 9** [Save] をクリックします。
- ステップ 10** ステップ 2 で表示された [View Tokens] をクリックします。  
追加された Cisco CMX テザリングインスタンスが一覧表示されます。
- ステップ 11** Cisco Spaces ダッシュボードを Cisco CMX に接続するためのトークンを生成するには、[CMX テザリング トークン (CMX Tethering Tokens)] ウィンドウで、トークンを生成する Cisco CMX テザリングインスタンスの [キー (Key)] アイコンをクリックします。
- ステップ 12** [コピー (Copy)] をクリックします。

**ステップ 13** Cisco CMX にログインします。

**ステップ 14** **[Manage]** > **[Cloud Apps]** を選択します。

**ステップ 15** 表示される **[クラウドアプリケーション (Cloud Applications)]** ウィンドウで、**Cisco Spaces** の **[アクション (Actions)]** 列にある **[有効 (Enable)]** をクリックします。

**ステップ 16** 表示されるウィンドウで、**Cisco Spaces** ダッシュボード からコピーしたトークンを設定します。

トークンを使用して CMX テザリングを設定すると、特定の CMX ノードのロケーションマップが **[マップサービス (Map Service)]** ウィンドウに表示され、ロケーションが自動的に **Cisco Spaces** ダッシュボードの **[ロケーション階層 (Location Hierarchy)]** に表示されます。

(注)

- **[ロケーション階層 (Location Hierarchy)]** からロケーションを削除すると、**[マップサービス (Map Service)]** から削除されます。
- Cisco CMX で **Cisco Spaces** サービスを有効にするには、**Cisco Spaces** アカウントが必要です。
- Cisco CMX の場合、ロケーション階層の **[More Actions]** を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。 **[Setup]** > **[Map Service]** でロケーションを更新する必要があります。ただし、ゾーン (AP ゾーン) を追加することはできません。ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除できます。ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは **[Map Service]** から削除されます。詳細については、[Cisco CMX を使用したシスコワイヤレスコントローラのロケーション階層の管理](#) を参照してください。
- Cisco Prime Infrastructure でのロケーションの更新を Cisco Spaces で自動的に同期するには、Cisco CMX の **[マップ同期 (Map Sync)]** ボタンをクリックする必要があります。

## Map Service にロケーションマップをアップロードすることによる CMX テザリング

設定は Cisco Spaces の一部ではない外部アプリケーションで行うため、このマニュアル内のメニューパス、タブやウィンドウ、オプションなどに指定する名前が変わる場合があります。

Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からマップをエクスポートできます。Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からエクスポートされ、**[マップサービス (Map Service)]** を使用して Cisco Spaces にインポートされたマップは、**[ロケーション階層 (Location Hierarchy)]** に自動的に表示されます。

Cisco Prime Infrastructure からマップをエクスポートして、ロケーションをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Prime Infrastructure にログインします。

**ステップ 2** **[設定/スタートアップ (Settings/Getting Started)]** ウィンドウで、ウィンドウの左上 (Cisco ロゴの近く) にある円形のアイコンをクリックします。

- ステップ 3** 表示されるウィンドウで、左ペインの [Maps] をクリックします。
- ステップ 4** [Wireless Maps] 領域で、[Site Maps (Deprecated)] をクリックします。
- (注)  
[Site Maps (New)] オプションを使用して、新しい場所を追加できます。
- ステップ 5** [Go] の近くにあるドロップダウンリストをクリックし、[Export Maps] を選択します。
- ステップ 6** [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ロケーションマップのツリービューから、エクスポートする親ロケーション (CMX ノード) を選択し、**Export** をクリックします。
- (注)  
[Include Map Information] チェックボックスがオンになっていることを確認します。  
ロケーションマップをコンピュータに保存します。
- (注)  
マップは zip 形式でダウンロードし、同じ形式で Cisco Spaces にアップロードする必要があります。
- ステップ 8** Cisco Spaces ダッシュボードで、[セットアップ (Setup)] > [マップサービス (Map Service)] を選択します。
- ステップ 9** ウィンドウの左上にある [Upload] をクリックし、Cisco Prime Infrastructure からダウンロードしたロケーションマップを選択します。
- ロケーションマップが [Map Service] にアップロードされます。
- (注)  
マップに表示される正方形のアイコン (展開/折りたたみアイコンの下) を使用して、[Setup] > [Map Service] で CMX ゾーンを追加できます。
- ステップ 10** Cisco Spaces ダッシュボードで [ロケーション階層 (Location Hierarchy)] を選択します。
- [Map Service] にインポートされたロケーションマップで使用可能なキャンパスとそれに関連するビルディングとフロアが表示されます。
  - Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされ、**Map Service** を使用して Cisco Spaces にインポートされたマップは、**ロケーション階層**に自動的に表示されます。
  - [Location Hierarchy] からロケーションを削除すると、[Map Service] から削除されます。
- (注)  
• Cisco CMX の場合、ロケーション階層の [More Actions] を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。[Setup] > [Map Service] でロケーションを更新する必要があります。ただし、ゾーン (AP ゾーン) を追加することはできません。ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除できます。ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは [Map Service] から削除されます。詳細については、[Cisco CMX を使用したシスコワイヤレスコントローラのロケーション階層の管理](#)を参照してください。

- Cisco Prime でのロケーションの更新を Cisco Spaces で同期するには、最新のマップを **Map Service** にアップロードする必要があります。

## Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコ ワイヤレス コントローラ (Cisco CMX なし) のロケーション階層の定義

次のいずれかのコネクタを使用して、Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ (CMX なし) または Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラを Cisco DNA Spaces に接続できます。

- Cisco WLC Direct Connect
- Cisco DNA Spaces コネクタ

これらのコネクタでサポートされる機能の詳細については、[各種コネクタがサポートする機能を参照してください](#)。

Cisco WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを使用してコントローラを Cisco DNA Spaces に接続すると、次のいずれかの方法を使用して、ロケーションをロケーション階層にインポートできます。

- [Access Point Prefix] : このオプションを使用している場合は、ロケーション階層にネットワーク、グループ、およびゾーンのみを追加できます。

シスコ ワイヤレス コントローラを Cisco DNA Spaces に接続し、ロケーション階層を Cisco DNA Spaces ダッシュボードにインポートする方法の詳細については、[アクセス ポイントプレフィックスを使用したロケーションのインポート \(12 ページ\)](#) を参照してください。または、Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Setup] > [Wireless Networks] で、[Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] の設定手順を参照することもできます。

- [Importing from Maps] : このラジオボタンは現在無効になっています。現在、マップを介してロケーションをインポートするには、[Setup] > [Map Service] を使用する必要があります。マップを使用すると、Cisco Prime、Campus-Building-Floor と同じ階層構造で場所をインポートできます。ロケーション階層のロケーションを表示するには、ロケーションマップを Cisco Prime Infrastructure からエクスポートして、そのマップを Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Map Service] オプションにアップロードする必要があります。マップを Cisco DNA Spaces にインポートすると、マップデータはロケーション階層に自動的に反映されます。Map Service を使用したロケーションのインポートの詳細については、[Map Service を使用したロケーションのロケーション階層へのインポート \(14 ページ\)](#) を参照してください。



- (注)
- [Access Point prefix] オプション ([Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] または [Connect via Spaces Connector] のいずれか) を使用してロケーションを追加していた場合に、ライセンス制限に従って AP をインポートできます。
  - ライセンス制限に達すると、コントローラで使用可能なライセンス制限を超える AP はロケーション階層と同期されませんでした。[Unconfigured] にある AP よりも、共通のプレフィックスを持つ AP が優先されるようになりました。[Unconfigured] にある AP は同期プロセス中に削除され、コントローラで共通のプレフィックスを持つ AP の同期が優先されます。
  - 以前に Cisco DNA Spaces で Cisco CMX を使用していた場合、Cisco DNA Spaces でシスコワイヤレスコントローラを直接使用するように移行した場合は、レポートとプロキシミティールールが影響を受けます。レポートは、新しいロケーション構成に基づいて表示されます。また、キャプティブポータルを表示したり、通知を送信したりするには、プロキシミティールールを再構成する必要があります。
  - 既存のロケーション階層に対して、Map Service を使用してロケーションを再インポートすると、重複する AP (すでにロケーション階層に存在し、新しくインポートされたマップにも存在する AP) がマップベースの階層に移動されます。したがって、レポートおよびプロキシミティールールが影響を受けます。また、キャプティブポータルを表示したり、通知を送信したりするには、プロキシミティールールを再構成する必要があります。

## アクセスポイントプレフィックスを使用したロケーションのインポート

### 手順

- ステップ 1 ロケーションを Cisco Spaces にインポートするには、Cisco Spaces ダッシュボードの左上にある 3 本線のメニューアイコンをクリックします。
- ステップ 2 [Location Hierarchy] を選択します。
- ステップ 3 [Location Hierarchy] ウィンドウで、顧客名 (ルート名) の右端にある [More Actions] をクリックします。
- ステップ 4 [Add a Wireless Network] をクリックします。
- ステップ 5 [Network Settings] ドロップダウンリストから、[WLC Direct Connect] を選択します。
- ステップ 6 [Access Point Prefix] オプションボタンをクリックします。

インポートされたシスコワイヤレスコントローラが一覧表示されます。

#### (注)

シスコワイヤレスコントローラは、そのシスコワイヤレスコントローラを Cisco Spaces にインポートするように設定した場合にのみリストに表示されます。

- ステップ 7 シスコワイヤレスコントローラを選択し、[Next] をクリックします。

このシスコワイヤレスコントローラは、プライマリシスコワイヤレスコントローラとして機能します。

**ステップ 8** セカンダリコントローラとして別のシスコワイヤレスコントローラを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

(注)

この機能は、プライマリコントローラがダウンした場合に、同じ AP を含むセカンダリシスコワイヤレスコントローラで Cisco Spaces を管理するのに役立ちます。

セカンダリコントローラはオプションです。[Skip] ボタンをクリックすると、セカンダリコントローラを選択せずに次の画面に移動できます。

**ステップ 9** 追加するネットワークを選択します。

(注)

Cisco Spaces は、AP 名のプレフィックスに基づいて AP を自動的にグループ化し、ネットワークを作成します。ネットワークでグループ化されていない AP は、「Unconfigured」という名前でリストに表示されます。

(注)

あるネットワークを選択していない場合、そのネットワーク内の AP は、「Unconfigured」という名前でロケーション階層に追加されます。

**ステップ 10** [Done] をクリックします。

選択したプライマリコントローラとセカンダリコントローラの AP がロケーション階層に一覧表示されます。

**ステップ 11** ロケーション階層で、ネットワークの右端にある [More Actions] アイコンをクリックし、次に [Add Zone] をクリックします。

**ステップ 12** 表示されるウィンドウで、ゾーンの名前を入力し、ゾーンに含める AP を選択します。

**ステップ 13** 同様に、必要なすべてのゾーンを作成します。

**ステップ 14** すでに Cisco CMX を使用してロケーション階層を作成している場合は、そのロケーション階層を削除し、キャプティブポータルルール、エンゲージメントルール、ロケーションパーソナルルールなどのルールを再設定します。

(注)

- ロケーション階層を設定した後、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認します。定義されたタイムゾーンによって、Cisco Spaces のルールとレポートが影響を受けます。
- シスコワイヤレスコントローラに AP を追加するときは、Cisco Spaces での自動ネットワーク作成を容易にするため、適切な命名規則に従います（該当するプレフィックスを使用）。
- シスコワイヤレスコントローラで、新しい AP がシスコワイヤレスコントローラに追加されると、追加された AP は、次のシスコワイヤレスコントローラ同期の際に自動的にインポートされます。インポートされた AP がシスコワイヤレスコントローラから削除された場合、この変更は 48 時間経過しないと Cisco Spaces に反映されません。
- シスコワイヤレスコントローラでは、Cisco Spaces を使用して、異なるプレフィックスを持つアクセスポイントを 1 つのネットワークでグループ化できるようになりました。ネットワークをロケーション階層にインポートした後、ネットワークをクリックして、さまざまなプレフィックスの AP

を追加します。ロケーション階層でネットワークロケーションをクリックすると、[Location Info] タブに、そのネットワークにさまざまなプレフィックスの AP を追加するための新しい [Access Points Prefix Used] オプションが表示されます。プレフィックスを追加すると、指定されたプレフィックスを持つ、未構成のネットワークに属する AP がこのネットワークに移動します。[Access Points Prefix Used] オプションは、ネットワークロケーションでのみ使用できます。ただし、[Access Points Prefix Used] オプションを未構成のネットワークに対して使用することはできません。

### 次のタスク

プライマリコントローラを変更したり、セカンダリコントローラを追加したりすることができます。さまざまなプレフィックスの AP を 1 つのネットワークに追加することもできます。詳細については、[シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズコントローラのロケーション階層の管理 \(WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを使用\)](#) を参照してください。

### Map Service を使用したロケーションのロケーション階層へのインポート

シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラが WLC Direct Connect または Cisco DNA Spaces コネクタを介して Cisco Spaces に接続されている場合、Map Service を使用してロケーションをロケーション階層にインポートできます。このオプションを使用している場合は、同じ階層構造 (キャンパス - 建物 - フロア) に場所をインポートできます。



- (注) Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からマップをエクスポートできます。Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からエクスポートされ、[マップサービス (Map Service)] を使用して Cisco Spaces にインポートされたマップは、[ロケーション階層 (Location Hierarchy)] に自動的に表示されます。

Cisco Prime からマップをエクスポートして、ロケーションをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Prime Infrastructure にログインします。
- ステップ 2 [設定/スタートアップ (Settings/Getting Started)] ウィンドウで、ウィンドウの左上 (Cisco ロゴの近く) にある円形のアイコンをクリックします。
- ステップ 3 表示されるウィンドウで、左ペインの [Maps] をクリックします。
- ステップ 4 [Wireless Maps] 領域で、[Site Maps (Deprecated)] をクリックします。

- (注)  
[Site Maps (New)] オプションを使用して、新しい場所を追加できます。

- ステップ 5** [Go] の近くにあるドロップダウンリストをクリックし、[Export Maps] を選択します。
- ステップ 6** [移動 (Go) ] をクリックします。
- ステップ 7** ロケーションマップのツリービューから、エクスポートする親ロケーション (CMX ノード) を選択し、[Export] をクリックします。
- (注)  
[Include Map Information] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- ステップ 8** ロケーションマップをコンピュータに保存します。
- (注)  
マップは gzip 形式でダウンロードし、同じ形式で Cisco Spaces にアップロードする必要があります。
- ステップ 9** Cisco Spaces ダッシュボードで、[セットアップ (Setup) ] [マップサービス (Map Service) ] を選択します。
- ステップ 10** ウィンドウの左上にある [Upload] をクリックし、Cisco Prime Infrastructure からダウンロードしたロケーションマップを選択します。
- ロケーションマップが [Map Service] にアップロードされます。
- ステップ 11** Cisco Spaces ダッシュボードで [ロケーション階層 (Location Hierarchy) ] を選択します。
- [Map Service] にインポートされたロケーションマップで使用可能なキャンパスとそれに関連するビルディングとフロアが表示されます。
  - Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされ、**Map Service** を使用して Cisco Spaces にインポートされたマップは、**ロケーション階層**に自動的に表示されます。
  - [Location Hierarchy] からロケーションを削除すると、[Map Service] から削除されます。
- (注)  
ロケーション階層を設定した後、ロケーションのタイムゾーンが定義されていることを確認します。定義されたタイムゾーンによって、Cisco Spaces のルールとレポートが影響を受けます。
- ロケーションが [Map Service] を使用してインポートされた場合、ロケーション階層の [More Actions] を使用してキャンパス、ビルディング、およびその他の子ロケーションを追加することはできません。[Setup] > [Map Service] でロケーションを更新する必要があります。ただし、ゾーン (AP ゾーン) を追加することはできません。ロケーション階層からロケーションをグループ化または削除できます。ロケーション階層からロケーションを削除すると、そのロケーションは [Map Service] から削除されます。詳細については、[Cisco CMX を使用したシスコワイヤレスコントローラのロケーション階層の管理](#)を参照してください。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。